

都道府県サッカー協会/地域サッカー協会 専務理事/理事長 各位
各種サッカー連盟 御中

2006年4月11日
財団法人日本サッカー協会
ジェネラルセクレタリー 平田竹男

サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針

1. 【基本的指針】

全てのサッカー関係者は、屋外でのサッカー活動中（試合だけでなくトレーニングも含む）に落雷の予兆があった場合は、速やかに活動を中止し、危険性がなくなると判断されるまで安全な場所に避難するなど、選手の安全確保を最優先事項として常に留意する。特にユース年代～キッズ年代の活動に際しては、自らの判断により活動を中止することが難しい年代であることを配慮しなければならない。

※ 全てのサッカー関係者とは主として指導者（部活動の顧問含む）、審判員、運営関係者などであるが、下記にある通り放送局やスポンサー他、選手も含めて広義に解釈するものである。

2. 基本的指針の実行のために、下記の事項について事前に良く調べ、また決定を行ったうえで活動を行うものとする。

① 当日の天気予報（特に大雨や雷雲などについて）

② 避難場所の確認

③ 活動中止を決定権限を持つ者の特定、中止決定の際の連絡フローの決定

※ サッカー競技規則上では「試合の中止は審判員の判断によること」となっているが、審判員が雷鳴に気づかない、審判員と他関係者との関係で必ずしも中止権限を審判員が持てないケース（例えばユース審判員；これに限らない）などもあり、このような場合は中止を決定する/または審判員に中止勧告を行う人間をあらかじめ明らかにしておくこと。

※ トレーニングやトレセン活動なども活動中止決定者を事前に決めてから活動をはじめめるものとする。

※ 中止決定者が近くにいない状況で現象が発生した時は、その場にいる関係者が速やかに中止を決定できることにしておく事。

3. 大会当日のプログラムを決める際はあらかじめ余裕を持ったスケジュールを組み、少しでも危険性のある場合は躊躇なく活動を中止すること。

大会スケジュールが詰まっていたり、テレビ放送のある試合などでも、本指針は優先される。従って事前に関係者（放送局、スポンサー含む）の間において、選手・観客・運営関係者等の安全確保が優先され、中止決定者の判断は何よりも優先されることを確認しておくこと。

4. 避雷針の有無（避雷針があるからと言って安全が保障される事はないが、リスクは減る）や避難場所からの距離、活動場所の形状（例：スタジアム、河川敷 G、等）によって活動中止の判断時期は異なるが、特に周囲に何もない状況下においては少しでも落雷の予兆があった場合は速やかに活動中止の判断を行うこと。

以上

添付：＜落雷の予兆＞に関する参考資料

〈落雷の予兆〉に関する参考資料

文献『雷から身を守るには—安全対策Q&A—改訂版』（日本大気電気学会編、平成13年発行）には、落雷被害を避けるための予知方法について次のように記述されている。以下抜粋して掲載する。

「どのような方法でも発生・接近の正確な予測は困難ですから、早めに安全な場所(建物、自動車、バス、電車などの内部。)へ避難することです。

モクモクと発達した一群の入道雲は落雷の危険信号です。厚い黒雲が頭上に広がったら、雷雲がさらに近づいたと考えて下さい。雷雲が近づくときは、多くの場合は突風が吹くとともに気温が下がり、やがて激しい雨になります。しかし、突風や降雨より落雷が先に起こることがありますので、早めの避難が大切です。」

「雷鳴はかすかでも危険信号です。雷鳴が聞こえるときは、その後の雷が自分に落ちてくる危険がありますから、すぐに安全な場所に避難して下さい。雷鳴が聞こえなくて雨も降っていないときに、突然落雷が発生する場合がありますので、雷鳴だけで雷の発生や接近を判断するのは危険です。

もっと遠いところの雷の発生は、ラジオで中波や短波のAM放送を受信していると、ガリッガリッという雑音が入ることにより、検知できます。雑音の間隔が短くなり、激しく連続的になるときは、雷がさらに接近してくるときです。このときはラジオの雑音だけでなく、雷鳴にも注意して下さい。雷鳴が聞こえてくれば、雷雲はすでに危険な範囲に入っています。」

「雷雲が遠ざかって雷鳴が聞こえなくなっても、20分くらいはまだその雷雲から落雷の危険がありますから、安全な場所で待機することが必要です。また、一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づいてくる場合がありますので、新しい雷雲の接近に常に注意することが必要です。」

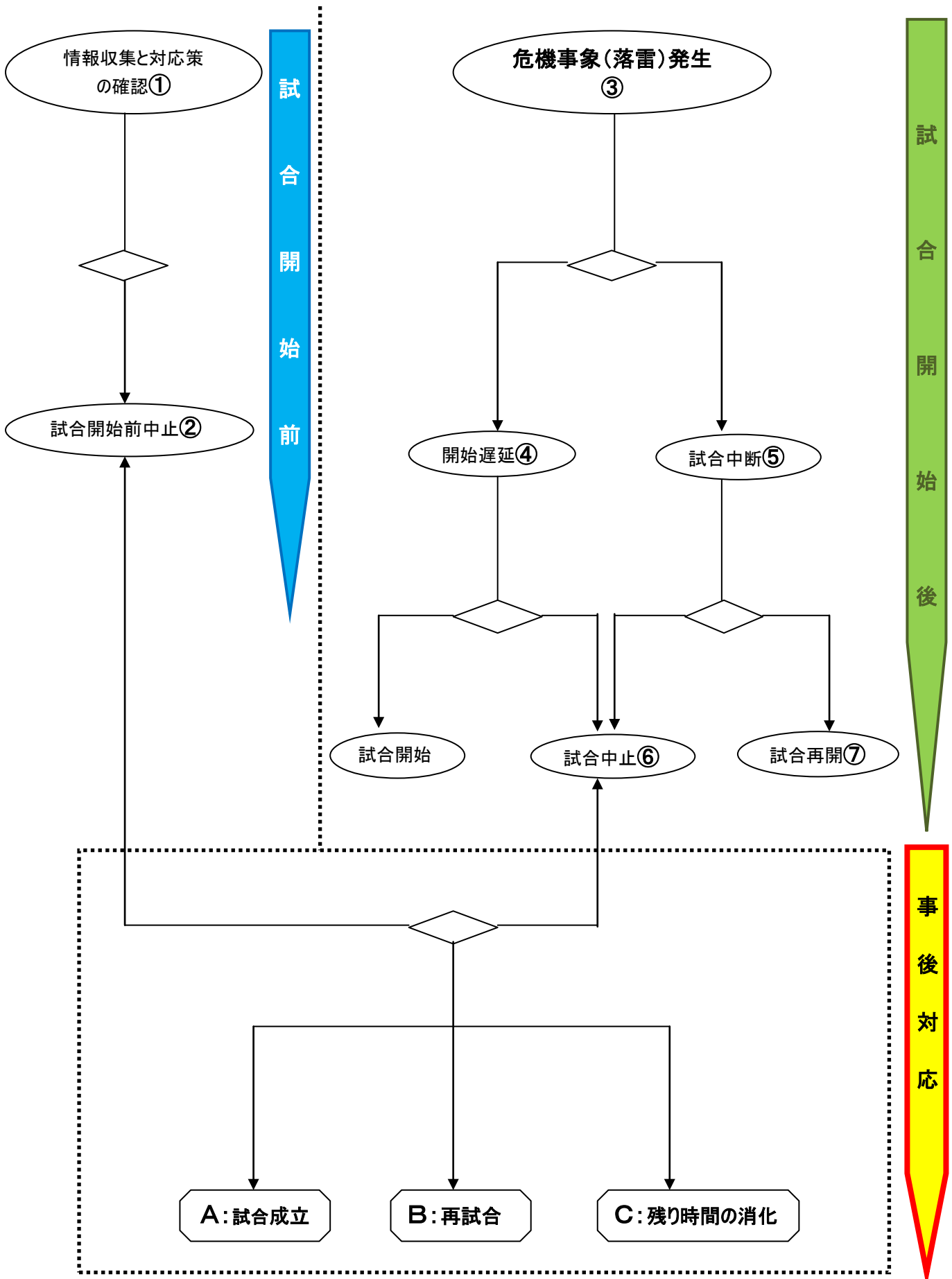
「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部は安全です。」「本格的な木造建築の内部も普通の落雷に対しては安全です。しかし、テントやトタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険があります。」

「絶えず雷鳴に注意し、空模様を見守ります。雷鳴がきこえたり雷雲が近づく様子があるときは、直ちに近く建物、自動車、バスの中に入り、安全な空間に避難します。雷鳴は、遠くかすかに聞こえる場合でも、自分に落雷する危険信号と考えて、直ちに避難して下さい。雷活動が止んで20分以上経過してから、屋外に出ます。

屋根のない観客席も危険ですから、安全な場所に避難します。」

以上

危機事象(落雷)発生時の試合運営に係る判断について(フローチャート)



危機事象(落雷)発生時の試合運営に係る判断について(フローチャートの説明)

危険と判断した場合は躊躇なく
中止、中断する。

主催、主管協会代表者は大会・試合運営関係者に雷対応について徹底すること！！！！

試 合 開 始 前

①情報収集と対応策の確認 → (決定責任者)大会・試合運営責任

- 落雷の可能性が高い状況になった場合、関連情報(特に大雨や雷雲)収集と情報の共有を行うこと。
- 情報収集の方法、収集先を事前に確認しておくこと。また簡易雷警報器等の機材を確保することが望ましい。
- 避難場所の確認を事前に行うこと。
- 中止を想定し、決定機関、決定手順および連絡先の確認を行うこと。

②試合開始前中止 → (決定責任者)大会・試合運営責任者

- 事前中止の判断をした場合は、予備日の対応および関係方面との調整を速やかに行う。

試 合 開 始 後

③危機事象(落雷)発生

- 事象発生を受けて、対応を関係者で検討を行う。

④開始遅延 →

(決定責任者) ①主審
②マッチコミッショナー
③大会・試合運営責任者

- 短時間に状況が回復する可能性の場合も安全管理の見地から、遅延の対応を含め慎重に対応する。

⑤試合中断

(決定責任者) ①主審

②マッチコミッショナー

③大会・試合運営責任者

- 危険と判断した場合は躊躇なく中断する。
- 競技規則上では「試合の中断は審判員の判断で行うが、審判員が雷鳴に気づかない可能性もあり、マッチコミッショナー・第4の審判員・大会・試合関係者の連携を密に保つこと。
- 審判員と他関係者との関係で必ずしも中断権限を審判員が持てないケース(例えばユース審判員:これに限らない)などもあり、このような場合は中断を決定する/または審判員に中断勧告を行う者をあらかじめ明らかにしておくこと。
- 上記の事例で中断決定者が現場にいないケースを想定して、現場にいる関係者で速やかに中止を決定できることを事前に確認しておくこと。

⑥試合中止

(決定責任者) ①主審

②マッチコミッショナー

③大会・試合運営責任者

- 中断と同様に危険と判断した場合は躊躇なく中止する。
- 競技規則上では「試合の中止は審判員の判断で行うが、マッチコミッショナー・第4の審判員・大会・試合関係者の連携を密に保つこと。
- 審判員と他関係者との関係で必ずしも中止権限を審判員が持てないケース(例えばユース審判員;これに限らない)などもあり、このような場合は中止を決定する/または審判員に中止勧告を行う者をあらかじめ明らかにしておくこと。
- 上記の事例で中止決定者が現場にいないケースを想定して、現場にいる関係者で速やかに中止を決定できることを事前に確認しておくこと。
- 中止に伴う、作業、連絡を速やかに行う、尚、事後対応については下記の「事後対応」を参照。

⑦試合再開

(決定責任者) ①主審

②マッチコミッショナー

③大会・試合運営責任者

- 収集した情報をもとに危険性がなくなると判断された後には速やかに試合を再開すること。

事後対応

大会主催者、運営責任者は事前に試合成立に関し規定しておくこと！！

A * 試合成立 → (決定責任者) ①主審
②マッチコミッショナー
③大会・試合運営責任者

- 中止され、再開が不可能とされる場合は原則再試合を行うこととする。
- 施設面、安全管理面、日程面で再試合が不可能の場合、関係者の了解を前提に試合を成立させることまたは勝者を決定することが出来る。

B * 再試合/C * 残り時間の消化 → (決定責任者)大会・試合運営責任者

- 再試合が可能な場合は可及的速やかに、然るべき決定機関にて決定する。
- 再試合は同一、他会場にとらわれず、実施することが出来る。
- 状況によっては別途日程にて残り時間の消化により試合を成立させることができる。